

この一年全体をリフレクションしてみても

15FF1226 金地俊亮

① 自分の成長と気づきについて

私はこの原田ゼミに入って、一番成長したこと、気づいたことを述べていこうと思う。成長したと一番実感を覚えたのは、NPO 法人エンドゴールへサービスマスターとして6日間ではあるが、いったことである。そもそもNPOという言葉では理解していても、何を具体的に行うかは理解していなかったのである。エンドゴールでは他ではやっていないことをやってみようという野心的でとても面白そうなところであるとわかった。

その中では、物事に対する柔軟性や、客観的にさまざまなことを見たりと、普段では考えもしないようなことを、行っていったのである。その中には、クラウドファンディングという新しい資金を募る方法を、サービスマスターで行うというものであった。クラウドファンディングとは多くの投資家から株式を募集することによる企業の資金調達の手法としても注目されている。一般に製品開発やイベントの開催には多額の資金が必要となるが、クラウドファンディングでは、インターネットを通じて不特定多数の人々に比較的少額の資金提供を呼びかけ、一定額が集まった時点でプロジェクトを実行することで、資金調達のリスクを低減することが可能になる。ソーシャルメディアの発展によって個人でのプロジェクトの立ち上げや告知が容易になり、それに呼応する形でクラウドファンディングによる資金調達が活発になりつつある。この方法で知多娘というエンドゴールでやっている声優アイドルグループのフィギュアを、このクラウドファンディングという方法で資金を募るということを、させてもらうことになったのである。初めてのことに、戸惑いやあせりもあったが、社員の方々がサポートしてくれたり、何とかやり遂げることができた。

さまざまな体験をこのサービスマスターで体験し、自分で考えて行動することができるようになった事が、一番の収穫だったと実感したのである。

② 活動をとおして見えてきた地域や市民活動の現状や課題について

地域への提案

- 各世代が関わり合い自分の居場所だと思えるサロンを作る。

誰が →NPO 団体や行政

工夫 →その地域に何が必要かを考えそのニーズに応える

○地域でのイベントを催す。自分の居場所をつくる橋渡しをする

誰が →地域のボランティアや福祉学生

工夫 →イベント告知をしてみず人を集める。そこから顔見知りができるように後押しする

○一人暮らしの人たちを対象に公民館などで会をつくる

誰が →NPO 団体やボランティア

工夫 →集まってもらった人が生き生きとするように趣味のようなものを提供する

私が学んだ地域、地域に生きる私

15FF0525 今井秀哉

① 自分の成長と気づきについて

私が、4月の自分と比べて、成長したこと、気づいたことは4点ある。

まず1点目は、NPOのことを知ることができたことである。NPOという言葉自体は今まで聞いたことがあっても、どんなところであるのか、何をしているのかということ詳しくは知らなかったのである。サービスマーケティングなど、この一年間の学びを通して、以前より少しずつNPOについてわかったような気がするのである。NPOは地域のために活動をしているところなのだということだ。地域が良くなるため、地域に住む人のために様々なことをするのがNPOということが実感できた一年だったように強く感じる。

次に2点目だが、今回のサービスマーケティング先のエンド・ゴールでの活動をさせていただいたのだが、活動の中で、多くの人々とコミュニケーション取る機会はとても多く、多くの人と話すことがあった時間であった。今回クラウドファンディングという新しい資金の調達方法の形を提案して、企画する中でエンド・ゴールの方やその他製作に関わる人たちと会議を重ねていく中で、多くの人とコミュニケーションをとることができたことのように感じる。人と関わっていく力は自分の力となってきたように思う。また、こういった人と関わり、コミュニケーションをとっていく力はサービスマーケティングが終わった後の発表のまとめの時間であったり、研究発表までの研究を深めていく時間であったりとする、グループメンバーとの関わりにもこれらの力があつたからこそ、研究発表まで継続した学びをすることができたように強く思う。

次に3点目だが、サービスマーケティングの時のグループ、また、研究発表の時のグループでもグループリーダーを務めた。リーダーというグループをまとめていくことの経験がなく、なかなかまとめていくのは難しかったのだが、この一年リーダーをやってみて、以前よりも、まとめる力がついたように感じる。

最後に4点目であるが、サービスマーケティングの活動の中で色々な人に対してのあいさつをすることであったり、キビキビとした行動のとり方であったり、人として当たり前前にできるようなことを当たり前にするの大切さを身を持って感じる事ができた。サービスマーケティングの活動とはいえ、一般の人からみれば、エンド・ゴールスタッフなわけなので、スタッフのするあいさつや行動として見られてしまうので、スタンダードな部分をしっかりとやるということは、より今まで以上にしっかりと身につけていく力ということを感じた。

以上の4点が私にとって、1年を通して、4月からの自分と比べて、成長したことや、気づいたことである。

② 活動を通して見えてきた地域や市民活動の現状や課題について

私自身の活動を通しての課題点を挙げていながら、地域や市民活動の現状や課題、今後の展望へとつなげて述べていきたい。

まず、1点目だが1年でNPOのことを知ることができたと前述させていただいたが、それでも、僅かな、サービスマーケティングの期間だけでは、知れたとしてもごく一部にしか過ぎないのである。つまりNPOについて一部をよく知れただけで、まだまだ知らないことが多い状態なのである。このことは地域に住む人たちにおいても私と同じようにNPOのことをそれほど知らなかった、または、NPOを少ししか知らないということもあるように感じる。いろんな人にNPOということをもっとしてもらおうと課題として挙げられるように考える。私もサービスマーケティングを通して知ることができたので、これからは機会があれば、立ち寄り、関わりを持ってみたいと感じる。また、地域について考える時間を生活の中で少しでも作れたらいいと思う。地域住民もNPOに少しずつ関心をもっていくことが大切を感じる。NPOも地域住民に関心を持ってもらえるような活動が求められていくように感じる。

次に2点目だが、私たちがサービスマーケティングでの企画や案を出したり、研究発表の準備をしたりして、その後の発表までにもっと意見を出したり、研究を深めたりすることはできなかったかなと思う。もっとメンバーとの協力の時間を多くしなければならなかったように思う。NPOとしてももっと多方面との連携、協力が必要なのではないかと考える。もっと活動へ深みを求めていくために、多方面の力を借りながら、NPOを躍進させていけば、よりよいNPOになると感じる。

これら2点が私の考えた地域や市民活動の現状や課題、今後の展望のように感じる。地域で生きていく意識や関心を私自身、そして周りの人たちも、高めていくながら地域とともにこれからも生きていきたい。

忘れてはいけない姿勢

15ff4287 山口洸樹

SLを通して気づきや学びは、全部で3つある。まず一つ目は、自己主張をすることである。私が活動先は、エンド・ゴールであり、若者の就労支援や相談援助、地域活性化を目的とした知多半島アイドル『知多娘。』の活動を行っている。私は若者の就労支援に興味関心があり、ここで活動をしようと考えていた。しかし、実際のSLには、すべて『知多娘。』の活動のみであった。活動日程も決まっており、なかなか就労支援、相談援助を見たいと言えない状況でもあった。しかし、同じ期間にインターン生も活動を行っていたが、その中の1人は、若者の就労支援を希望しており、ひとり別行動を行っていた。そこで、私も自己主張をしていかなければいけないと感じた。自分からやりたいことをやりたいと伝えないとなにも変わらないのであると学んだ。

次に二つ目は、活動させてもらっているという心構えと姿勢である。活動中のこの心構えと姿勢を欠いている行動を繰り返ししてしまい、非常に反省している。活動をしているときは、私たちはエンド・ゴールの関係者であり、日本福祉大学の学生という看板を背負っていることを忘れていたのである。4人で、企画について会議する時間をよくもらっていたのだが、オープンスペースであったので地域住民や行政の方など、様々な人々が利用している中で私たちは、大きな声で関係ない話をしていて、長時間の会議だったので、集中を切らしていたということもあったが、学生らしからぬ言動をしてしまった。

学ばせてもらっているという感謝の気持ちや経験を成長に活かしていきたい気持ちがあれば、あの様なことはしていないはずである。様々な看板を背負って活動している私たちは、周りの目があることを実感し、決して忘れてはいけないものであると感じる。

そして三つ目は、同じグループのメンバーと協力して活動を行うことである。私は SL 中協力して行うことができなかつたと言えるほど、メンバーと関わりを持たなかつた。SL 前のプレゼンなどのパワーポイントは自分 1 人で作ってしまい、発表だけ任せるということをしていた。やはり、作成の段階から協力して行わなければ、伝えたい箇所が共有できずに発表の際に詰まってしまうたり淡々と発表するだけになってしまう、作ったものが無駄になってしまう。一つのを協力して作り上げる達成感を得られる点においても、協力することは非常に大切なことだと感じる。

エンドゴールは、現状において、知多娘。の地域活性を目的としたアイドル活動に力を注いでいる。知多半田にある本部では、カフェを経営しているだけである。以前に行なっていたフリーステーションという机を囲みに地域住民と交流する活動は、行なっておらず、フリーステーション開催する時間と人手が足りたいとお話を伺った。現在のエンドゴールは、若者就労支援は一宮のオフィスで活動し、半田のオフィスは知多娘。の活動を、メインとしている。SL では、一宮の活動は全く触れることがなかつたので、どのような活動を行なっているのかは未知である。そして、今回の SL を行なって、地域と

の関わりが全くないというのを感じた。今は、メインは知多娘。を全面に押し出して活動しているため、フリーステーションなどの活動は後回しである。知多娘。のオーディションから参加をさせてもらっていたが、声優の専門学校に通っている学生や大学生から高校生、ゆるキャラなど参加していた。専門学校学生は、さすがのレベルだった。大学生や高校生は、未経験の子が多くいた。それでも、アイドルや芸能の世界に入りたいという熱は非常に伝わってきた。その子たちを育て上げる意味では、いまの人数でやっているのが驚くぐらい職員はハードであると感じた。練習も見学させてもらったが、やる気に満ち溢れていて、夢がある人たちの勢いというものを感じた。エンドゴールは、地域活性化を目的として、この若いスターの卵を育成していく、変わった NPO ということであった。

地域活性化

15ff3255 服部友貴

○自分の気づき、成長

私が行ったエンドゴールは、知多娘というアイドルグループを基本とした NPO 法人であり、知多半島の活性化にとっても貢献した。地域で野外ライブなどおこない町の PR をやってきながら知多半島を盛り上げていく感じになった。その中でグッズ販売などお客様にとっても喜んでもらえる企画ばかりだ。

私たちが経験していったのは、グッズの作成などでフィギュアをつくる計画をした。クラウドファンディングでおかねをあつめフィギュアを作成する過程に入った。その時に 100 万単位のお金が動きとてもびっくりしたが会社を動かすっていうのは、根本から考えて儲け方からお客様に満足してもらいまた買ってもらえるようなグッズを考えていかないといけないのは、とても大変だったがやりがいがあり良い経験になった。



<http://www.chita-musume.com/character/>引用

上が主人公である知多みるくと、美浜町 PR の美浜恋です。

こちらに声優がつきイベントなどで知多半島の良いところを PR していくのだ。

私たちは、イベント準備など会場づくりなどをしたが知多娘がやりやすいように盛り上げたり旗の置き位置など考えたりとても考えることは、多かったですがお客さんが楽しんでいるところをみるとやってよかったと思える部分がありよかった。やって感じたことは、知多娘も大事だが裏方の私達もやりやすくセットしていくことや物販などお客さんが来てくれるような呼び方が大事だなと感じた。表にたつ人たちが主に集客をして、それを支えている裏方の人達がいる。これは社会の縮図であると感じた。世間的に言ってしまうと注目するのはアイドルの方になりがちだが、それを支える裏方があるからこそなりたつものだと思うので、裏で努力をする人がいるということを知れたこの 6 日間は自分にとってよい経験になった。

つぎに地域活性化に着目してみる。近年では地域活性化を目標とした「ご当地アイドル」というものが流行っており、それによって実際に観光客が増えたりなどの県としての収入が増えたりなどよい結果が出ている。知多娘もその中の一つである。それによって知多半島の集客率が上がり、結果的に知多半島地域の地域活性化につながってくると思う。だからこの活動は知多半島に良い影響を与えている。

○市民活動、地域貢献について

エンドゴールで実習を行って感じたことは、知多娘などのご当地アイドルが及ぼす集客率はすごいということだ。このことをふまえて考えると、各地のご当地アイドルを強化や、新たなグループをつくるなどして集客をし、来たところで観光スポットを進めていけば地域としての利益になり豊かになる。近年ではマスメディアで取り扱われると注目を浴びやすいのでそういったものを利用して行けば効果が期待できる。

○まとめ

これから私たちが社会に出ていく上でとても良い経験をさせてもらった。大人の人たちは、今をではなく、将来を見ており売上を上げてくようにしていくとおもった。それが売れることにより地域活性化に繋がるし他県からきてグッズなど買ってもらうことで知多半島を覚えてもらいまた来てもらえることで景気が良く回っていくから知多娘は、知多半島に欠かせないと思った。ここから先知多半島をよりよくしていくのは、今住んでる僕たちだと思ふしNPOの方々であると思う。NPOが率先して町おこしをしていくことで市民の方々がついてきてくれるからここから先大きなイベントなど外から客寄せができることをしていったら良いであろう。私たちも大学として知多半島を支えていきたい。